

医療機器別フィッティング&観察のコツ

弾性ストッキング

◆ 弾性ストッキングのMDRPU好発部位 ◆

弾性ストッキングのMDRPU好発部位は以下の通りです。

膝の下の腓腹部ですが、ここは外側だけでなく内側にも発生するので注意が必要です。

脛骨部は骨に沿って発生します。足関節部も発生しやすい場所です。足を動かしている間にしわができて発生するため一か所とは限らず、何か所か発生する方も多いです。

同様にアキレス腱も注意が必要です。他にも弾性ストッキングの観察窓の位置が間違っていると、観察窓のゴムに沿って赤くなってしまう場合があるので観察窓の位置には気を付けてください。



◆ 弾性ストッキングの正しいフィッティング ◆

次に正しいフィッティングを見ていきましょう。

The fitting process is shown in seven sequential steps:

- 正しいサイズを選ぶことが大切。**商品によって異なるが、ふくらはぎや足首の計測が必要な場合もある。
- 補助具がセットになっている場合は、補助具を使用すると履かせやすくなる。はじめにかかとまでしっかり履かせる。
- かかとを必ず正しい位置に合わせるのがポイント。ずれているとシワやたるみの原因になる。
- フィッティングは、上に引っ張るのではなく横に広げるように伸ばしながら足に布を当てていくような感覚で行う。
- 骨のでっぱり 膝まで上げきらずに膝から指2、3本分くらい下のところまででとめる。ひざ下側面にある骨のでっぱりにかからないようにする。
- 全体にシワがないか確認する。シワ部分は撫でるようにしてなじませると、シワが取れていく。
- 最後に補助具を観察窓から抜き取って、再びシワがないかを確認。観察窓の位置は商品によって異なるので取扱説明書を必ず確認する。

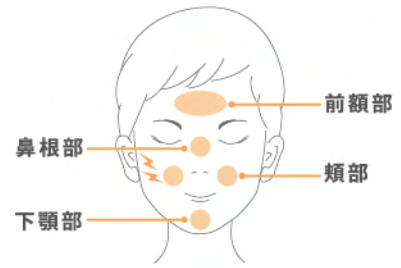
▼ 不安を感じる時はクッション材で対策を

すでに赤くなっていたり、骨のでっぱりが大きい場合はあらかじめクッション材を貼っておく。脛骨の両サイドの凹んでいるところに高さを出すために両サイドに貼る場合も。

NPPVマスク

◆ NPPVマスクの好発部位 ◆

右のイラストのように前額部、鼻根部、頬部、下顎部、頸部に器具やベルトが当たるためMDRPUが発生しやすいです。



◆ NPPVマスクの悪いフィッティングの例 ◆

患者は横になっている場合がほとんどのため、つい片側のベルトだけを締め付けてしまいがちです。すると左右のバランスが崩れて強く当たる場所が発生してしまうので注意しましょう。



額のベルトが左右対称かをチェック。このようにどちらかが長い場合は、ずれている証拠。



下のベルトも同様に左右の長さが違っているとどちらかにポジションがずれている。



後頭部は本来は真ん中にベルトの中心が来なければならない。

◆ NPPVマスクの正しいフィッティング ◆



あらかじめ左右対称で仮止めをしておく。額に左右対称にフィットするように合わせる。この時、後頭部もベルトの中心が真ん中に来るように合わせる。



マスク部分のベルトも左右対称の長さになるように緩く仮止めする。



仮止めで装着してから額部分とマスク部分のベルトを左右対称になるように締めていく。



後頭部にベルトの中心が来ていることを確認する。



再び緩い部分を少しずつ調整していく。一気に締め上げないように注意する。



鼻根部にあるアジャスターを調整することで掛かりすぎた圧を抜くことができる。



痛くないか患者に確認して完了。



▼ 不安を感じる時はクッション材で対策を

ケアをしていても危険を感じる場合は、圧迫軽減のためにクッション材をあらかじめ貼っておくことも有効。ただ、貼ったから大丈夫というわけではなく、定期的に発赤がないか確認することが大切。

NPPVマスクではエアリークを無くそうとするあまり、どんどん締め付けを強くしていってしまうこともMDRPU発生の原因となります。エアリークは必ず0でなければならないわけではありません。医師に確認し可能範囲であれば必要以上にエアリークを減らす必要はありません。

また義歯の方は、義歯を使用した状態でマスクを装着してください。義歯を外していると頬がくぼんだ状態となり、エアリークが発生しやすくなります。エアリークを気にして締め付けを強くしてしまうと、必要以上の圧迫がかかり、MDRPU発生の原因となる場合があります。

酸素マスク

酸素マスクのひもは硬くて丈夫な素材が用いられています。その分直接ひもがあたっている耳には大きな負担がかかっています。

◆ 好発部位 ◆



マスクひもは山なりになって、下に引っ張られる。その力が加わっている部分が気づけば潰瘍になっていることも多い。

◆ 対策方法 ◆



マスクひもは耳にかけるばかりでなく、下にできる場合もあるので患者によって検討する。



どうしても耳に力が加わる場合は耳にクッション材を貼るか、ひも側にクッション材を貼ることで発赤等が回避できることも多い。

酸素カニューレ / ネーザルハイフロー

慢性期では急性期よりも、さらに長期間、酸素カニューレなどを装着することが多いです。急性期では見たことがなかった部位でのMDRPUも発生しています。酸素カニューレでは頬や耳、加えて男性の患者は喉ぼとけにMDRPUが発生します。またネーザルハイフローについても酸素カニューレと同様に頬や耳の部分にMDRPUがしやすいので、あらかじめクッション材を貼ることで対策ができます。

◆ 好発部位 ◆



好発部位は頬と耳、そして男性では喉ぼとけ。

◆ 対策方法 ◆



頬や耳にあたる部分のチューブにクッション材を貼り付ける。喉ぼとけには皮膚側にクッション材を貼る。

血管留置カテーテル

血管留置カテーテルのロックナット部分でMDRPUが発生する場合があります。特に手背や足背など皮下組織の少ないところは要注意です。これを回避するためにはロックナット部分の下にクッション材を貼ることをお勧めします。

◆ 対策方法 ◆



ロックナット部分の下にクッション材を貼る。



上からテープで固定。

最後に繰り返しになりますが、MDRPU対策において機器の装着時に大切なのは患者の体の状態を考慮しながら、適切なサイズ、装着方法で丁寧にフィッティングと観察・チェックを行うことです。

装着前の発生要因の洗い出しとケア計画の立案、装着後の観察とあわせて、対処していけばMDRPUは確実に減らすことができます。

器具圧迫をやわらげる

「クッション・ドレッシング」

ココロール

切って貼るだけで、いつでも使えるココロール。高いクッション性で、さまざまな器具のストレスから肌を守り、快適な治療の継続をサポートします。器具を使い始めるときから、セットで貼ってあげましょう。



血管留置カテーテルの圧迫を軽くする

「クッション・ドレッシング」

ココロール カテ用

薄いのが高いクッション性で、硬いロックナット部分の圧迫をしっかり吸収し、痛みを起こさないためのケア（痛みケア）を実現します。滅菌済のカットタイプで誰でもすぐに使え、さまざまなリスクや手間も軽減します。



テープが医療にできること、もっと。

株式会社 共和 メディカルグループ

skinix
www.skinix.jp

大原本社: 〒557-0051 大阪市西成区橋3-20-28
TEL: 06-6658-8217
FAX: 06-6658-8101
東京支店: 〒135-0016 東京都江東区東陽5-29-16
TEL: 03-5634-3843
FAX: 03-5634-3845

実演も含めて
動画で詳しく解説



【いつでも無料】
セミナー動画はこちら

